

こども園における自己評価

記入方法

- ・ A,B,C,Dの4段階にて評価する。該当欄に○を付ける。
- ・ 項目ごとに、取り組み状況及び課題を記述する。

- A：たいへんよい
 B：よい
 C：一部検討を要する
 D：改善を要する

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
教育・保育理念	(1) 理念や基本方針が職員に周知されているか	○				<p>・アンケート結果から、当園の理念や基本方針は利用者に十分周知されており、現在の取り組みは適切であると判断できる。今後も、職員や保護者が日常的に目にする玄関掲示をはじめ、保護者会総会、園だより、職員会、園内研修など、さまざまな機会を通して継続的に周知していく。</p> <p>・理念や方針に基づき、日々の教育・保育について職員同士で振り返り、意見を交わしながら実践している。</p> <p>・主体性を育む教育・保育を進めるにあたり、一人一人を大切にし、子どもの人格を尊重した関わりができるよう、保育者間で確認し合いながら取り組んでいる。</p>
	(2) 理念や基本方針が利用者に周知されているか		○			
	(3) 理念や基本方針に基づいた教育保育が行なわれているか	○				
	(4) 一人一人の子どもの人格を尊重した教育保育について共通の理解をもっているか	○				
教育保育の計画	(1) 社会状況や子どもの実態、地域性などを考慮し、必要に応じて教育保育課程の見直しを行っているか	○				<p>・子どもたちの発達段階を踏まえ、行事や日々の活動についてはその都度職員間で話し合い、振り返りを活かしながら内容を検討している。外部講師を招いて公開保育やカンファレンスを行うことで、子ども理解を深めるとともに、子ども主体の教育・保育について継続的に学ぶ機会を設けている。また、ドキュメンテーションを取り入れた園独自の日誌を掲示し、子どもの育ちを保護者と共有している。掲示の前で立ち止まり、真剣に読み込む保護者の姿が徐々に増えており、子どもの成長への関心や喜びが高まっている様子がうかがえる。</p> <p>・今年度は月案の様式を見直し、園児の特性や発達の過程、日々の保育の様子をもとに、担任同士が十分に話し合いながら柔軟に対応できる仕組みへと改善した。さらに、異年齢児との自然な交流に加え、世代間交流や地域とのつながりを大切に、園だけでは得られない餅つきや門松づくりなど、多様で豊かな体験ができるよう計画的に取り組んでいる。</p>
	(2) 指導計画は、乳幼児の心身の発達を踏まえ、入園から修了までの長期的な視野を持って充実した生活が展開できるように配慮し作成されているか	○				
	(3) 子どもの生活が豊かになるよう行事を精選し、子どもの発達を踏まえて、その内容や実施の仕方について見直しを行っているか	○				
子どもの発達援助	(1) 子ども一人一人の健康状態や発育・発達の状態を把握し、職員間にて共有されているか		○			<p>・公開保育を実施することで、職員同士が互いの保育について意見を交わし、カンファレンスで講評を受けながら新たな学びを得る機会が生まれている。こうした取り組みは職員間の共通理解を深め、保育の相乗効果にもつながっている。子どもの主体的な活動を大切にするという共通の目標に向かって、職員の意識も次第に揃ってきている。日頃から子ども主体の生活や遊びを重視し、そこから生まれる子ども中心の遊びを行事へと発展させるよう努めている。その結果、「自分で考えて行動する力」が育ち、近年の行事では子どもたちの生き生きとした姿がより多く見られるようになったと職員も実感している。</p> <p>・月1回のランチの日には、子どもたちが思わず笑顔になるような盛り付けや、季節を感じられるメニューを提供している。日頃から野菜の皮むきや洗浄など、食材に触れる機会を積極的に取り入れており、子どもたちが育てた夏野菜を使ったクッキングも楽しんでいる。</p> <p>また、空き部屋を活用したランチルームやピザ窯を使い、保育参加として親子でピザづくりやパンづくりに挑戦する機会も設けている。一緒に作って味わう体験は好評で、レシピを希望される保護者も多い。</p> <p>さらに、月津の特色である「お味当番」も継続しており、これからは子どもたちが食事を楽しめるよう、さまざまな工夫を続けていきたい。</p>
	(2) 子どもが安定感をもって過ごし、自分の気持ちを安心して表すことができるよう留意しているか		○			
	(3) 子どもに相応しい食生活が展開されるように、食事について見直しや改善を行っているか	○				
	(4) 子どもが食事を楽しむことができる工夫をしているか	○				
	(5) 子どもが主体的に活動できるような、人的・物的環境が整備されているか		○			
	(6) 子ども一人一人を受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われているか		○			
	(7) 健康安全や発達の確保を十分に図り、日々の環境を整えているか	○				
	(8) 子どもが自ら周囲の様々な環境と関わり、発達に必要な体験を積み重ねていけるよう努めているか		○			
	(9) 子ども自身が自分を肯定する気持ちを育て、継続的な信頼関係が築かれているか	○				

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
子どもの発達援助	(10) 保護者の生活形態を反映した子どもの在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、子ども一人一人の状況に応じた工夫が行われているか		○			・障がいのある子どもについては、一人ひとりの状態に応じた個別の支援を行っている。加配担当職員と担任が子どもの様子や必要な配慮を共有し、集団活動にも無理なく参加できるような環境を整えている。また、子どもが興味や関心を十分に発揮できるよう活動内容にも工夫をしている。
	(11) 障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、教育保育の内容や方法に配慮されているか	○				・小学校の施設見学や授業参観、1年生との交流会を通して、子どもたちが小学校生活への期待を持てるようにしている。また、年長児の運動会や生活発表会の練習の様子を小学校の校長に見ていただいたり、入学予定の子どもたちの様子について話し合う時間も設けている。今年度も、1年生の担任が来園して園児の様子を見学し、意見交換を行った。さらに小学校では校長先生による体験授業も実施され、子どもたちの緊張が次第に和らぎ、安心感や入学への期待へとつながっていった。
	(12) 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、教育保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されているか	○				
保護者に対する支援	(1) 子どもの発達や教育保育などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けているか	○				・クラス懇談会では、園での子どもたちの様子や頑張っていること、今興味を持っていることなどを共有するとともに、家庭での姿について保護者から話を聞き、日頃の子育ての悩みを保護者同士で話し合いながら情報交換を行う場となっている。年長児については個別懇談も実施し、就学に向けて子どもの様子や、保護者が抱える不安や悩みを丁寧に共有している。また、行事後のアンケート内容を見直したことで、子どもの育ちや成長をより深く理解し合えるようになった。
	(2) 虐待に対応できる園内の体制（医療機関、児童相談所など専門機関との連携）の下、不適切な療育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び予防に努めているか	○				・今年度は、保育参観に外部講師による「子育て講座」を取り入れて実施した。多くの保護者が参加し、子どもの発達への理解が深まっただけでなく、日頃の悩みの解消や子育ての楽しさの再発見にもつながった。
	(3) 地域の子育ての拠点として「こども園の開放」「相談・援助」「交流の場の提供」「情報の提供」の支援を行うよう努めているか	○				・週2回の園開放では、季節に合わせた制作活動やベビーマッサージ、園児との交流を行っている。ここでは、子育ての悩みを気軽に相談でき、保護者同士が情報交換を行える大切な場として定着している。 さらに、今年度からは育松園児福祉センター「ハーモニー」の子育て支援相談員が月1回訪問するようになり、園と連携しながら保護者を支える心強い存在となっている。 園児の自然な姿に触れられることで、途中入園を予定している親子にとっても安心して過ごせる場となり、園への信頼や期待にもつながっている。
教育保育を支える組織的基盤	(1) 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、看護師の専門性を活かした対応を図っているか	○				・看護師によるきめ細かな健康面への配慮と保育教諭との連携により、子ども一人ひとりの健康状態や発育・発達の様子を的確に把握し、職員間で共有している。感染症の流行が予測される際には、職員や保護者へ速やかに情報を伝達し、感染の予防と拡大防止に努めている。
	(2) 体調不良、アレルギー疾患等をもつ子どもに対し、適切な対応が行われているか	○				
	(3) 避難訓練・安全点検・不審者侵入防止訓練等、子どもの安全確保のための適切な対応が行われているか	○				・園では、避難訓練・安全点検・不審者対応訓練など、さまざまな事態を想定した訓練を定期的実施し、安全確保に努めている。毎年、消防による立ち合い訓練や警察署員を招いた不審者侵入を想定した訓練、地震発生時の災害を想定した引き渡し訓練を行っている。9月の「防災の日」には、地域の防災士を招き「防災の話」として指導いただき、午後には大地震発生を想定した引き渡し訓練を実施した。事前に職員間で綿密な計画と役割分担を行ったことで、当日はスムーズに引き渡しができ、保護者の協力も得られた。
	(4) 地震などの自然災害に対する防災対策は行われているか	○				さらに、能登半島地震を受け、地震時には園内を裸足で歩けない状況が想定されることから、対策として3歳以上児に草履を日常的に履かせ、避難時に備える取り組みを始めた。現在では日常的に活用され、習慣として定着している。
	(5) 施設長がリーダーシップを発揮し、職員が教育保育の内容の充実と質の向上を図れるよう努めているか	○				・事業計画については、運営委員会・職員会・終礼などで園長より報告があり、職員間で周知されている。保護者にも、全体で集まる機会や園だより、ホームページなどを通して伝えている。今後も、より理解が深まるよう工夫していく。
	(6) 研修等、教育保育の質の向上を図るべく、自己研鑽への取り組みを積極的に行っているか	○				・要望や苦情に関する相談窓口や相談方法について十分に知られていない方がいたため、入園説明会や保護者会総会の際に、より具体的かつ詳細な情報を伝えていく必要があると考えられる。
	(7) 事業計画が職員に周知されているか		○			・園長をはじめ職員全員が、保護者の希望に寄り添いながら相談に応じられるよう努めている。面談の際は、ロールカーテンを下ろすなどして事務所内にプライバシーを確保した環境を整えている。
	(8) 事業計画が利用者に周知されているか		○			・個人評価の結果を踏まえ、日々の保育内容を見直すとともに、組織として取り組むべき課題を明確化している。これらの課題については職員会や園内研修で共有し、話し合いを重ねながら改善に取り組んでいる。
	(9) 守秘義務の遵守が全職員に周知され、守られているか	○				
	(10) 個人情報適切に取り扱いつともに、保護者の苦情に対し、早期解決を図るよう努めているか	○				
	(11) 苦情解決の仕組みが確立され、保護者等に十分に周知・機能しているか		○			
	(12) 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備しているか	○				
	(13) 保育教諭等が主体的に自己評価に取り組み、教育保育の改善が図られているか	○				
	(14) 個人の評価結果に基づき、組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施しているか		○			